

## ○基本的な考え方

- ・魅力ある観光地域を形成するためには、観光客のニーズを把握した上で、適切な取組を実施することが重要。
- ・しかし、これまでの調査票による統計では、一定の時点における数量の分析が可能であったが、観光客の行動・動態についてはわからなかったため、取組はデータから把握されたニーズよりも、経験や勘に基づくところがあった。
- ・そこでGPS機能等により蓄積される「位置情報」等を活用することにより、観光客の行動・動態について調査手法等を検討し、試行的実施を通じて、観光地域の新たな調査・分析手法を構築し、観光地域づくりに資するニーズを把握するための基礎データとする。

## ○平成25年度調査事業での考え方

- ・平成25年度事業において、観光庁が主に観光圏6地域を対象に基礎データの収集を実施
- ・観光庁より基礎データを今後の観光地域づくりに資する材料として対象地域にフィードバック
- ・各地域における自地域の特性の確認、地域づくりの戦略の立案、取組の実施につなげていく

### 観光地域づくりの基礎データ収集

- 位置情報等を活用した調査・分析
- 定量的なデータに基づく来訪者の行動・動態の把握
- 調査・分析の手法確立



### 基礎データに基づく地域の現状把握

- 観光地域の特性の確認
- 地域間の相互比較



### 地域での取組

- 魅力ある観光地域づくりの戦略の立案・取組の実施

○調査に使用するデータ ⇒ ゼンリンデータコム「混雑統計®」を使用

「混雑統計®」とは? 地域に流出入する人口を把握できる「人の流れ統計データ」

## 位置情報の 取得・蓄積

株式会社NTTドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」サービスの「地図アプリ」「ご当地ガイド」において、オートGPS機能を利用されている方より、利用許諾を得た上で蓄積

※取得間隔 : 最短5分間隔

※ユーザー数 : 50~70万人(時期により変動・月単位のユニーク数)

株式会社NTTドコモが、総体的かつ統計的なデータへの加工を  
ゼンリンデータコムへ委託

## 位置情報の 加工・提供

統計処理・秘匿／推計処理・を行い、集計データに加工

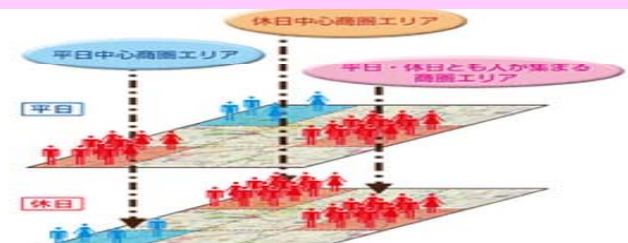
## 「混雑統計®」の 使用

- 総体的かつ統計的に加工された集合データ
- 利用者個人の特定はできません
- 「人の流れ」を定量的に把握

### 【活用例】

#### ・流動人口統計データ

地域に流出入する人口を、任意の期間を指定して日別・曜日別・時間帯別に見ることができるデータ。時間とともに推移する地域の人口を可視化することが可能。



## ○調査、分析、活用の考え方

### ・調査にあたって

位置情報データベースから対象データの抽出にあたり、来訪者の特徴の定義付けが必要。

- ①来訪者から「観光客」の抽出
- ②「観光客」の旅行形態(日帰り、宿泊)の区分

定義	定義の構成要素	構成要素の詳細	
「観光客」の定義	自宅／勤務地	対象地域に居住／勤務している人を除外(※1)	
	ビジネス客	リピート回数	同一地域に月6回以上訪問した人はビジネス客とみなし除外(※2)
		宿泊日数	同一地域内に8泊以上した人はビジネス客とみなし除外(※2)
	観光客	対象地域内に180分以上滞在した人(※3)	
宿泊／日帰り旅行の定義	宿泊	対象地域内外に関わらず、旅行中に1泊した人 (1泊の定義:午前4時にいた場所が対象地域内(※4))	
	日帰り	日帰り	観光旅行全行程で日帰りだった人の中で、自宅から対象地域までの片道の移動距離が80km以上、又は、所要時間(移動時間と滞在時間の合計)が8時間以上の人(※5)
		他地域宿泊 対象地域内日帰り	対象地域外で宿泊しているが、対象地域内では日帰り旅行となる人

※1 自宅／勤務地エリアは今回使用するデータ(「混雑統計」)による月次推定

※2 対象エリアに週1回(=月6回)以上訪問、または「旅行・観光消費動向調査」で全体の5%を切る8泊以上をビジネス客として除外

※3 観光客の滞在時間は、今回の調査対象エリアの大きさ、通過時間を踏まえて設定

※4 宿泊の判定時間は、今回使用するデータ上で最も流動が少ない時刻を踏まえて設定

※5 日帰りの移動距離、所要時間は既存の統計での基準(「旅行・観光消費動向調査」)を踏まえて設定

## ・分析にあたって

対象地域への入込、滞在時間等の分析項目を「マクロ分析」、対象地域内の地点ごとの流動、滞在時間等の分析項目を「ミクロ分析」とし、項目ごとの掛け合わせによる分析を行う。

### マクロ分析の例

- ・日帰り観光客の滞在時間分布
- ・宿泊観光客の滞在日数分布
- ・観光客別・月別客数分布
- ・全旅行日程における観光圏内外の宿泊数の内訳
- ・距離別旅行者分布と出発地別旅行者分布
- ・観光圏外で宿泊した観光客の、観光圏外での宿泊場所
- ・観光圏内には宿泊せず、観光圏外のみで宿泊した観光客の観光圏外宿泊場所
- ・観光圏外立ち寄り有無と立ち寄り都道府県
- ・観光圏に来訪する際の交通経路(流入・流出交通手段)経路分担率
- ・交通機関別 経路ランキング
- ・全ての交通機関における、経路ランキング
- ・観光圏内で宿泊した観光客の宿泊地別交通手段(流入・流出共に)

等

### ミクロ分析の例

- ・出発都道府県別、距離帯別の滞在交流エリア別人数、滞在交流エリア数、交流エリア別平均交流時間
- ・最初または最後に滞在した交流エリア別流入幹線交通及び通過ポイント
- ・平休日別、季節別滞在交流エリア別人数、平均交流時間(※季節は3-5, 6-8, 9-11, 12-2月で区分)
- ・滞在交流エリア別圏外立ち寄り市町村上位
- ・観光圏内日帰り観光客における、滞在交流エリア別圏外宿泊市町村上位
- ・滞在交流エリア間の結びつき度
- ・滞在した交流エリアの組合せパターン
- ・宿泊した交流エリアの組合せパターン

等

## ・活用にあたって

滞在プログラムの設定、現地ガイドの育成、二次交通の整備等、観光地域づくりにおける取組を行うにあたり、入込客数、消費額、満足度等の一定の時点をつめた統計による指標を用いた評価に加え、来訪者の動態に基づく定量的な調査・分析を行い、取組の評価、ニーズを踏まえた新たな取組につなげていく。

## ・観光地域づくりにおける取組



滞在プログラムの設定



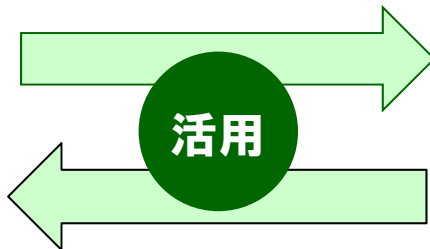
現地ガイドの育成



二次交通の整備

・来訪者のニーズの調査

・取組の効果測定

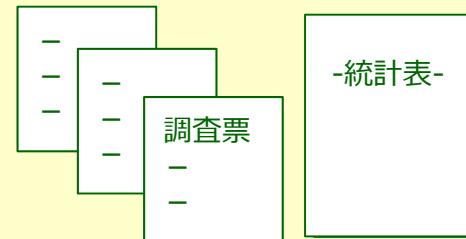


・データに基づいた  
取組の定量的評価

・データから得られた知見の  
新たな取組への反映

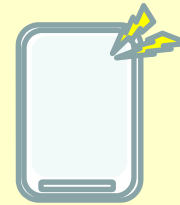
等

## ・一定の時点をつめた統計による指標

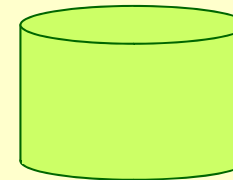


- 宿泊旅行統計調査
- 旅行・観光消費動向調査 等

## ・GPS機能等により蓄積される「位置情報」等を利用した観光客の行動・動態の調査・分析



携帯電話の  
GPS機能



位置情報  
データベース

No.	観光客	日帰り旅行	宿泊旅行	滞在時間	出発地	交通機関
1						
2						
3						
4						
5						
...	...	...	...	...	...	...

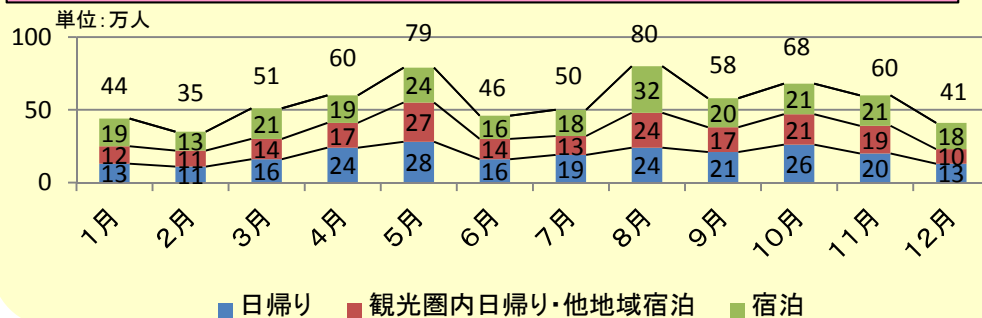
動態の調査・分析

# GPS機能による位置情報等を活用した観光行動の調査分析の指針(たたき台)

## ・活用にあたって

例えば・・・対象地域ごとの、来訪者の「宿泊／日帰り」構成状況、発となる地域の分布、利用交通機関による周遊特性を「見える化」し、今後の観光地域づくり、二次交通整備、エリア間の連携等へ活用。

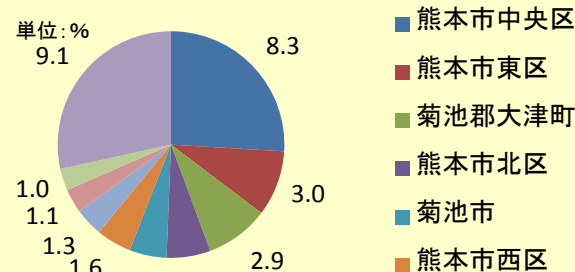
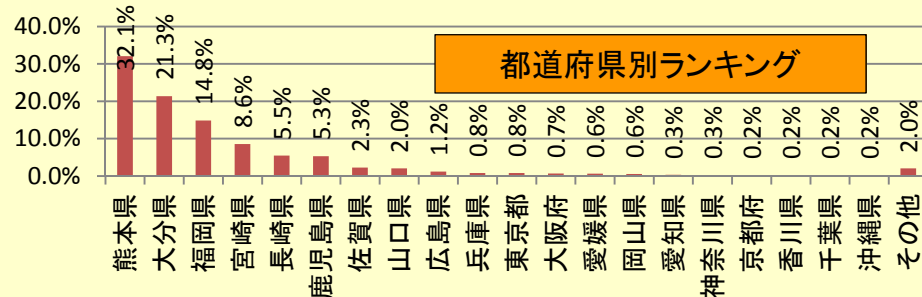
### 例：月別来訪者の宿泊／日帰り構成状況



- 来訪者のピークは5月と8月。
- 5月は地元の祭り等、地元民向けのイベントが多く、県内及び近隣県からの日帰り観光客が増える。
- 8月は夏休みにより遠方からの宿泊観光客が増える。

- ・誘引力のある5月に、遠方からの宿泊旅行客を増やせる可能性
- ・日帰りよりも宿泊客の多い冬季(11～2月)に滞在を楽しめる工夫でリピーターが確保できる可能性

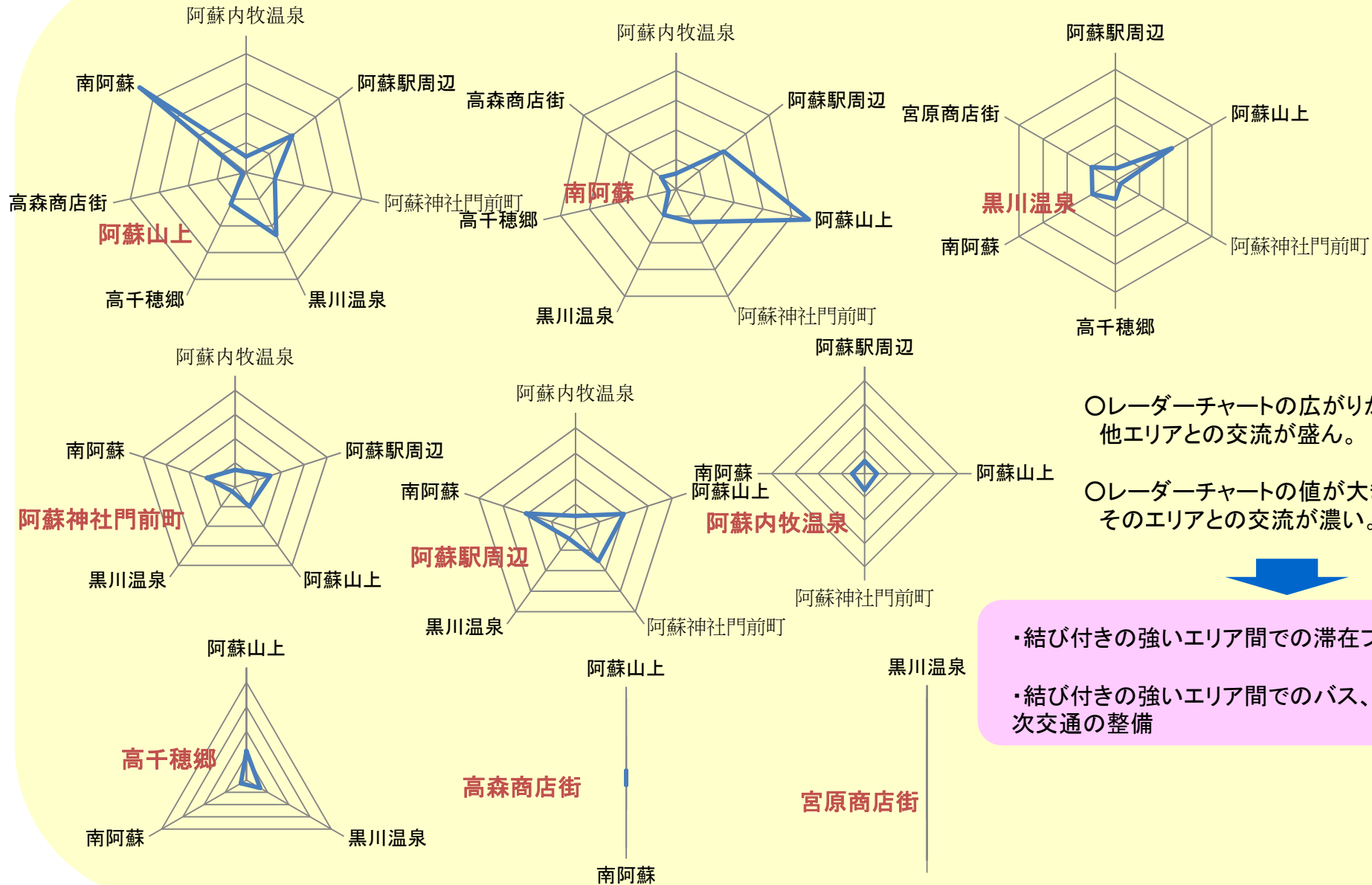
### 例：対象地域外で宿泊した来訪者の宿泊地



- 対象地域外での宿泊は、隣接する県で約8割を占める。
- 最も多い流出先では、中心都市に宿泊する傾向が見られる。

- ・宿泊集積地からのバス、タクシー等の二次交通の整備
- ・対象地域外での宿泊を組み込んだ滞在ツアーの実施

## 例: 交流エリア間の交流度合(上位20箇所)



○レーダーチャートの広がりが大きいほど、他エリアとの交流が盛ん。  
 ○レーダーチャートの値が大きいほど、そのエリアとの交流が濃い。



- ・結び付きの強いエリア間での滞在プログラムの実施
- ・結び付きの強いエリア間でのバス、タクシー等の二次交通の整備

## ○今後に向けての課題、留意点

定量的なデータに基づく観光振興の将来的展開に向けて、位置情報に係るデータ収集、蓄積・管理、活用にあたって質・量にわたっての体制整備が望まれる。

### データ利用の質的側面

- 性別、年代等の属性を加味したデータの利用
- 訪日外国人旅行客の動態把握のためのデータ整備
- SNS等、位置情報以外のデータとの重ね合わせによる調査・分析

### データ利用の量的側面

- 携帯電話キャリア等の偏りの少ない、オープンな位置情報データベースの利用
- 定型化、標準化された汎用的な調査・分析手法の確立によるスケールメリットの確保
- コストダウンによる地域レベルでの調査・分析の継続的实施

### 個人情報及びプライバシーへの配慮

- 質、量ともに充実したデータの取り扱いにあたり、パーソナルデータの利活用に関する制度見直しを踏まえた、個人情報及びプライバシーの保護への配慮が重要